

温室効果ガスの排出削減対策について

1. BAT の採用

・実施済

※BAT=Best Available Technology：事業者が利用可能な最良の技術

※「BAT の参考表【平成 26 年 4 月時点】」に掲載されている「(A)経済性・信頼性において問題なく商用プラントとして既に運転開始をしている最新鋭の発電技術」を採用

2. 「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」(省エネ法)に基づく

ベンチマーク指標の達成状況

・A指標：達成

・B指標：達成できるよう努めている

※省エネ法に基づくベンチマーク指標：

特定の業種・分野について、当該業種に属する事業者の省エネ状況を業種内で比較できる指標

A指標： 燃料種毎の発電実績効率の目標値に対する達成度合いに関する指標

[省エネ法に基づく判断基準により、2030年度に1.0以上とすることが
目標] 前提：石炭火力の発電効率：41.0%以上

B指標： 火力発電の総合的な発電効率に関する指標

[省エネ法に基づく判断基準により、2030年度に44.3%以上とすることが
目標]

3. 自主的枠組みの参加事業者への電力供給

・実施中

※自主的枠組み：電気事業連合会加盟会社他による電気事業全体での低炭素社会の実現
に向けた取り組み

4. CCS に関する所要の検討

・CCS 及びその関連情報の把握に努めている

※CCS=Carbon Dioxide Capture and Storage：二酸化炭素 回収・貯留

以上